



第52回

彩の国で魅せよう多彩なプレー！ 深めよう絆を！

全国ろうあ者体育大会in埼玉

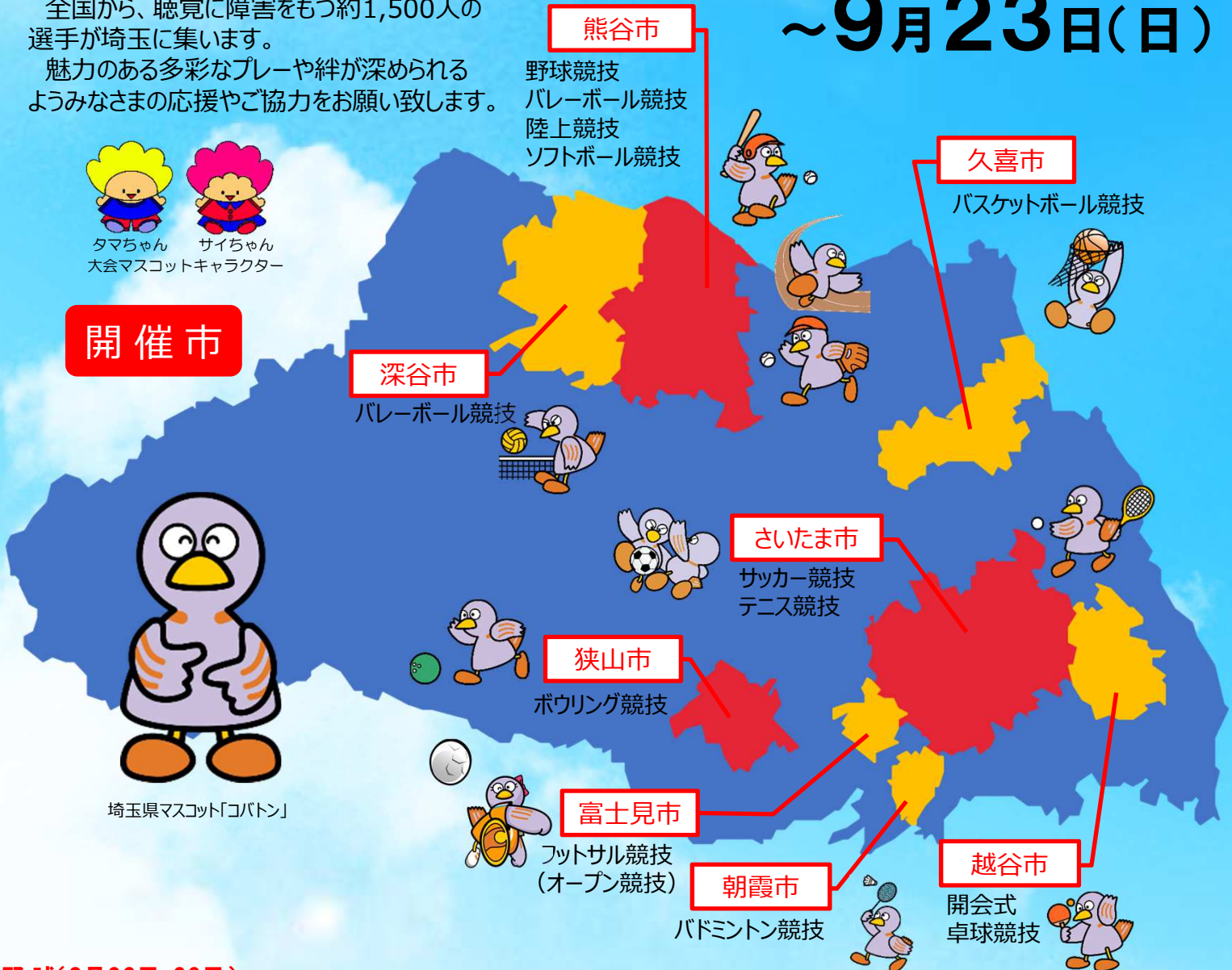
みんなで応援しよう!!

2018年9月20日(木)
~9月23日(日)

全国から、聴覚に障害をもつ約1,500人の選手が埼玉に集います。
魅力のある多彩なプレーや絆が深められるようみなさまの応援やご協力をお願い致します。



開催市



埼玉県マスコット「コバトン」

野球(9月22日・23日)

熊谷市/熊谷運動公園野球場

卓球(9月22日・23日)

越谷市/越谷市立総合体育館

バレーボール(9月22日・23日)

深谷市/深谷ビッグスタートル
熊谷市/彩の国くまがやドーム

陸上(9月23日)

熊谷市/熊谷スポーツ文化公園 陸上競技場

サッカー(9月22日・23日)

さいたま市/駒場運動公園
秋葉の森総合公園
NACK5スタジアム大宮

テニス(9月22日・23日)

さいたま市/天沼テニス公園

ボウリング(9月22日・23日)

狭山市/新狭山グランドボウル

ソフトボール(9月22日・23日)

熊谷市/熊谷荒川緑地

バドミントン(9月22日・23日)

朝霞市/朝霞市立総合体育館

バスケットボール(9月22日・23日)

久喜市/毎日興業アリーナ久喜

フットサル(9月22日・23日)

富士見市/富士見市立市民総合体育館

開会式(9月21日)

越谷市/越谷市立総合体育館



© SEIBU Lions/TEZUKA PRODUCTIONS



埼玉西武ライオンズの協賛をいただいています

ろう者スポーツについて

9月20日（木）～23日（日）の4日間、埼玉にて全国ろうあ者体育大会が開催されます。この大会は全国のろう者がスポーツを通して技を競い、健康な心と体を養い、自立と社会参加を促進し、合わせて聴覚障害者、ろう者スポーツへの理解を国民に深めるために開催しています。

戦前におけるろう者スポーツは各地のろう学校同窓会などを中心として主に野球や陸上競技などが行われてきました。終戦後、全日本ろうあ連盟が発足し、全国各地でろうあ協会活動が始まるとスポーツの中でいち早く野球が復活しました。昭和30年に京都で第1回全国ろうあ者野球大会が開催され、昭和42年に第1回全国ろうあ者体育大会が東京で開催されました。

社会生活の中において、ろう者に対する偏見や差別があったことはスポーツの世界においても例外ではありませんでした。ろう学校生徒の地区大会出場権はく奪、ろう学校の高野連加盟を拒否、スポーツジムへの入会等を望んでも、ろう者であることを理由に拒否されることがあったのです。納得できないろう者の集団は、市民と連帯し世論を味方にする事でこうした差別や偏見とたたかってきました。そのたたかいによって、他の市民と同等に参加する機会を獲得し、スポーツをする権利を守ってきました。

全国ろうあ者体育大会は、年1回、全国持ち回りで開催され、埼玉大会で52回目になります。野球、卓球、バレーボール、陸上、サッカー、テニス、ボウリング、ソフトボール、バドミントン、バスケットボール、そして今回はオープン競技としてフットサルが加わり、11競技が行われます。

また埼玉では初めての開催となり、ろう者への理解、ろう者スポーツへの理解を県民へ広めるとともに、埼玉県手話言語条例と合わせて手話への更なる理解の向上が期待されます。

2025年デフリンピックを日本で！



デフリンピック（Deaflympics）は、耳が聞こえない選手のための国際的なスポーツ大会です。

「Deaf」は英語で耳が聞こえない人という意味です。オリンピックと同じように4年に1度、夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催されます。第1回夏季大会は1924年にフランスで開かれました。競技ルールはオリンピックと同じですが、聞こえない選手のための視覚的保障がなされた競技環境があることがデフリンピックの特徴です。



聞こえない選手はスターターの音や審判の笛が聞こえないために、プレーする上で大きなハンデとなってしまいます。そのためフラッシュランプや旗などで競技上に必要な音声や審判の合図を知らせるなど、さまざまな視覚的な工夫をした環境がデフリンピックでは整えられているのです。

2018年6月に大阪で全日本ろうあ連盟第6回（通算69回）評議員会が行われ、デフリンピック日本招致に関わる特別決議が採択され、招待活動が始まりました。

ろう者のオリンピック

2025年デフリンピックを日本で！

デフリンピックは夢を育む**